

## 大豆紫斑病抵抗性育種素材の開発

農研機構 東北農業研究センター、  
農研機構 次世代作物開発研究センター



大豆紫斑病は、種子に紫色の斑紋が生じることで、品質の低下をもたらします。気候変動による気温上昇と降水量増加に伴い、全国的に発生が助長されることが懸念されています。そこで、本研究では、紫斑病に強い大豆育種素材を開発しています。

## 1 なぜ紫斑病に強い大豆が必要か？

大豆紫斑病は、一般的に農薬で防除可能ですが、防除効果は環境に左右されやすいという問題があります。

- 薬剤耐性菌が発生しやすい。
- 天候不順により適期に防除できない。
- 高温多湿条件で感染が助長される。

紫斑病に強い大豆をつくることができれば解決！！

## 2 紫斑病の検定方法の開発

紫斑病を安定して発生させるため、紫斑病菌の接種方法について検討を行いました。



梅雨入り前後に株間に紫斑粒を散播することで、安定して紫斑病を発生させることができると考えられました。

## 3 紫斑病に強い大豆の開発

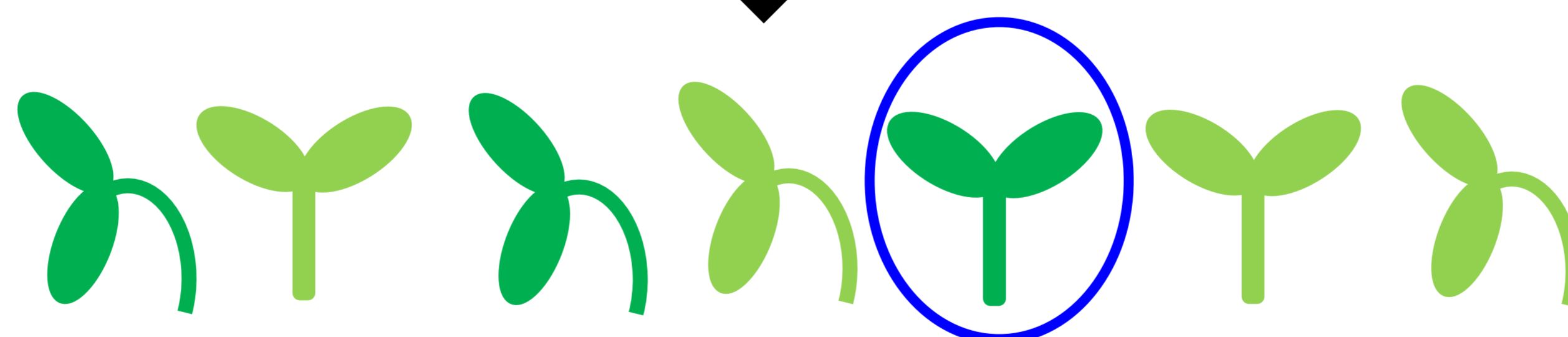


**強い品種**  
(在来品種)  
栽培特性悪  
小粒、品質悪

**弱い品種**  
(普及品種)  
栽培特性良  
大粒、品質良

×

交配、選抜



紫斑病に弱い普及品種に、強い在来品種の抵抗性を導入するため、育種素材の開発に取り組んでいます。

## ● 普及・社会実装への道筋

紫斑病の検定方法を開発することにより、着実に紫斑病に強い大豆品種の開発を目指します。